

## 令和 7 年 1 2 月定例会一般質問

通告 5

質問 殉公者追悼式の再構築と参加者増大に向けた働きかけを

答弁 平和教育に注力してまいります

15 番 まつむら やすひろ 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

15 番、松村康弘でございます。殉公者追悼式の再構築と参加者増大に向けた働きかけをと言うことで質問をいたします。

今年も 8 月 15 日終戦の日を迎え、中標津町でも追悼式が行われました。全国戦没者追悼式が国によって行われる式典であるのに対して、当町は殉公者追悼式として、戦後に亡くなった当町の公に殉じて命を失った消防団員の方などを共に慰霊しているところが違います。

さて、私が議員となって 20 年も経った頃からでしょうか。それ以前は多くの遺族の方が遺影を持参されて会場を訪れ、その遺影を祭壇の両側に展示され、会場は多くの方の遺影で埋め尽くされておりました。その遺影の展示がめっきり少なくなって、亡くなられた方のイメージが湧かなくなり、追悼式を所管する部局に亡くなられた方々の氏名を印刷して会場で配布したらいかがでしょうかと申し上げ、今日に至っています。

一方で私は、殉公者追悼式について参加者の拡大と広報についてという表題で、2019 年 9 月定例会において一般質問をしております。その中で私は、中標津遺族会の会長の言葉に深い感銘と共感を覚えており、多くの町民の方々、特に若い方々のあの慰霊祭に参列し厳かな雰囲気を経験するとともに、関係者や遺族の方々の言葉を直接お聞きし献花をすることをきっかけに、遺族代表が呼びかける戦争の深い悲しみを語り継ぐきっかけになっていただけないものかと問題提起を行いました。その結果、追悼式前の町広報紙に殉公者追悼式が 8 月 15 日に文化会館で行われることや一般の町民の広い参加を呼びかけることが答弁として約束いただき今日に至っています。しかしながら、この度の追悼式、会場中央から右側の遺族席には空席が目立ち、私は強い衝撃を覚えました。戦後 80 年ですから、当時戦死者を送り出した物心ついた兄弟姉妹、子どもたちは概ね 90 歳になろうとしてい



ます。戦死された尊霊の直系の親族はどんどん亡くなっています。二度と戦争になってはいけないというその思いを、何とか今こそ若い世代にも直接聞いてもらうわけにはならないものでしょうか。

戦後 80 年、今の若者たちは、どれだけ国の求めに応じて戦地に赴いたふるさとの先輩たち、その中には女性もいらっしゃいますが、それをどれだけ我がことに置き換えて考えているのでしょうか。そういう私だって、知った名字の方の氏名を黙読して、私の存じ上げているあの方のお父さんだったり、お兄さんだったりするのかなと思うぐらいで、戦後 80 年、戦争の記憶がどんどん風化していってしまいます。この際、祭られている方々にしっかり思いを寄せるように追悼式の内容を再構築し、例えば子どもたちのナレーションで、戦没された方の日時、場所を会場に流し、亡くなられた方々があの慰霊塔の向こうに座している姿を思わせるような会場設営にはならないものでしょうか。

併せて広く町民の参加を様々なレベルで働きかけ、遺族代表の追悼の言葉を生の言葉で聞かせていただく残り少ない機会なのだということを、強くアピールしていく時期ではなかろうかと考えるものですが、町長はどうお考えになられますでしょうか。

また、教育長にもお尋ねいたします。戦後 80 年、今、戦没者遺族の想いを子どもたちに直接聞いていただけなくて、その機会はいつ訪れるのでしょうか。教育委員会の協力なくして、そして中標津町にある全ての学校の先生たちと生徒たちの深い理解と共感なしには、私のこの度の質問の回答は成就いたしません。

どうかよろしく御答弁のほどお願い申し上げます。

#### 【答弁：町長】

松村議員御質問の殉公者追悼式の再構築と参加者増大に向けた働きかけにつきまして、御答弁申し上げます。

中標津町殉公者追悼式は、毎年 8 月に開催し、戦病死者や公務中に殉職された消防関係者の方々を慰霊する重要な場として、これまで御遺族の皆様や来賓の方々に御案内し参列をいただいているところですが、令和 2 年度から令和 4 年度の 3 年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小し、御遺族を主とし御来賓の御案内を最小限にとどめる形で実施いたしました。令和 5 年度からは感染症法の分類が 5 類へと移行したことを受け、従来どおりの御案内を再開するとともに、町広報紙により一般参列者の呼びかけを図ったところではありますが、しかしながら、本年度まで一般参列者数は僅かにとどまる状況です。また、御遺族も高齢化や健康上の理由などから年々減少傾向にありまして、今後ますます参列者の減少が懸念される課題であると認識はしております。

戦後 80 年という節目を迎えた現在、殉公者追悼式には単に犠牲者の慰霊を行う場だけではなく、二度と戦争を繰り返さないという思いを次の世代へ引き継ぐための重要な機会であると考えております。そのため、御遺族の高齢化や記憶の風化が進む今こそ、後世に語り継いでいく努力を一層深め、伝える方法を模索していくことが肝要であると認識しております。

ただし、児童生徒への式典の参加におきましては、夏季休業期間中の学校閉庁日との兼ね合い、御家族の予定を優先することから、広く呼びかける上での課題も併せて存在するのが現状です。

このような状況を改善するためには、式典参列の周知を町民全体に向けた呼びかけを強化する必要があります。町広報紙のほか SNS 発信とした広報を通じ、殉公者追悼式の趣旨が広く浸透するように努めてまいります。さらに殉公者追悼式が単なる形式的な行事で終わるのではなく、戦没者への想いを町民全体で共有し、平和を願う場としても意義深いものにするべく、中標津町遺族会やその他式典に関係する方々と話し合いを重ねながら、その上で開催時期や形式の見直しなど、具体的な検討を段階的に進め必要な改善に取り組んでまいり所存でありますので、御理解賜りますようお願い申し上げます。以上です。

#### 【答弁：教育長】

松村議員の御質問に御答弁申し上げます。

子どもたちに戦争の犠牲の歴史や平和の尊さ、そして、我が国のために殉職された方たちのことを遺族の証言等を通じて理解を深めることは、平和を守り続ける意識や町の歴史を語る上で大切なことであると認識しております。

現在、小中学校では学習指導要領に基づき、社会科や道德等の授業をはじめ、その他様々な取組のもと、戦争や平和についての教育を進めております。町長の答弁にもありましたとおり、現行の追悼式の日程では学校管理下での活動として参加することは難しい状況であると考えております。

しかしながら、いずれも大事なことと理解しておりますので、追悼式や殉公者についての資料を学校に提供し、教育に活かしてまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

昨今、台湾をめぐる日中関係が緊迫しております。また、この件をめぐる集団的自衛権についてもぜひ取り沙汰されている状況です。このような状況の中ではありますが、今後も子どもたちはもとより、我が国が再び戦火に見舞われることのないよう、平和教育に注力してまいりますので、御理解御協力のほどよろしくお願い申し上げます。